

## 東京ドーム企画 ～市民にとって身近な弁護士・弁護士会を目指して～

若手会員総合支援センター委員 藤原 奈美 (69期)

2018年8月15日、16日の両日、弁護士活動領域拡大推進本部及び若手会員総合支援センター所属の委員で、東京ドームにてPR活動を行いました。本企画は、弁護士・弁護士会の活動や社会的な役割・意義を理解してもらい、弁護士・弁護士会を市民に身近な存在としてアピールすることを目的としたもので、本年度4回目の開催となります。

具体的な活動としては、東京ドームで年に一度開催されるイースタンリーグ公式戦において、ブースを設置し、東京弁護士会の活動に関するパンフレット等を配布し、アンケート調査を行うものです。これらの活動を通して、試合観戦にいらした市民の皆様との交流を持つことができました。今年のイースタンリーグの2日間の動員数は37,699名、アンケートにご協力いただいた人数は160名にも上りました。そして、本年は、若手会員向けに試合観戦の招待券を配布し、多数の若手会員に参加いただくことができました。

今年の配布物の1つに「異議あり／異議なしうちわ」がありましたが、これがとても好評で、他の方が持っているうちわを見て、自らブースに受け取りに来てくださる方も多数いらっしゃいました。

また、PR活動の一環として、ジャフバ（日弁連広報キャラクター）とうさぎのマスコットが参加しました。もちろん、どちらも中に入っているのは当委員会所属の委員です！私もマスコットになるという初めての経験をすることができました。私は従来、いわゆるキャラクターものにさほど関心が高かったのですが、本企画に参加してみて、その訴求力の高さに驚きました。ジャフバに興味を示すのは小さな子どもだけかと思いきや、老若男女問わず、ジャフバがいるだけで人が集まってきます。ジャフバについて質問されることは多く、写真撮影もたくさんしていただきました。ジャフバは



日弁連広報キャラクターのため、東京弁護士会のキャラクターはいないのかとのご質問も多数いただきました。パンフレットを配布してご質問くださる方の中には、近隣他県の他士業の方もいらっしゃいました。東京の弁護士会が三会に分かれている理由や歴史にまで興味をお持ちで、その方の所属会の広報キャラクターの話から弁護士はじめ他士業との連携の必要性についてのご意見までお聞きすることができました。

想像していた以上に、たくさんの方から様々なお声がけをいただきましたが、最も嬉しかったのは、「今年も楽しみにしていた」といったお声かけです。私が本企画に参加したのは、今回が初めてですが、弁護士が自ら市民の集まる場所に出向いて広報を行うという試みが、市民の皆様を受け入れられ、浸透していることを実感できました。本企画は、単なる広報ではなく、市民の皆様との交流の中で、市民の弁護士に対してのイメージ、弁護士として望まれていることを肌で感じ、弁護士に必要な心構え等日々の業務の中で忘れがちになりそうなことを改めて考える良い機会となりました。来年以降も継続して本企画が開催され、より多くの会員に参加していただけることを期待しております。